地域支援センター「しせい」

第5号 福島県立相馬支援学校地域支援センター通信【令和2年11月25日発行】

親子学級すくすく座談会の様子より

10月15日（木）に親子学級すくすくの座談会が開かれました。参加者は、親子学級に参加している保護者６名、本校PTA会長さん、親子学級担当、教育支援アドバイザーの計９名でした。

座談会開催に当たり、保護者の方へ事前アンケートを実施し回答を頂き、その結果を踏まえながら、座談会では保護者全員から困っていること、心配なことを発表してもらい、その悩みに対する子育てのアイディアについて意見交換を行いました。

〇身辺自立に関して

特に排泄の自立については、家庭だけではなく第三者の専門家や学校の先生などのアドバイスを受け入れながら、全部を自分一人でやろうと思わないで、指導のプロに任せても良いのではないかという意見が出されました。また、家庭と学校が連携し協力しながら、できるだけ同一のやり方で指導することが大事で、子どもが混乱なく身辺処理（排泄）が自立できるよう指導を進めていければ良いのではないかという意見も出されました。

〇コミュニケーションに関して

コミュニケーション（言葉）や自己表現については、毎日の行動の中で少しずつ言葉やコミュニケーションのやり方を覚え身に付けていけるようにしたいという話がありました。また、子どもたちには内に秘めた言葉があり、行動や指さしなどでの表現で自分の身の回りの物事に対して気持ちを表現しているので、その気持ちや行動に対して言葉を添えて応え、根気よく少しずついろいろな表出の方法（身振り、手話なども含めて）ができるよう励ましていければ良いという意見も出されました。

〇集団行動について

集団行動での難しさについては、得意なことや苦手なことはあるが、周りからは「何もできない」と言われてしまうという話がありました。しかし、自分の子どものできるところを分かりやすく話してあげながら、周りの子どもたちなどの刺激を受けながら大きな集団の中で育てていけるようにしたいという意見が出されました。

〇兄弟姉妹の心のケアについて

小学校中学年くらいから段々と兄弟姉妹の障がいのことについて考えられるようになり、周りの友達に知られたくないという思いが芽生えてくることもあると思われます。しかし、思春期を過ぎる頃には障がいに対する正しい理解ができるようになり、障がいを持つ兄弟姉妹への思いやりや家族の絆がより深まるようになると思います。保護者が兄弟姉妹の心に寄り添い、愛情を持って接し育てることで、子どもたちの気持ちが安定し、穏やかで思いやりのある子どもに育っていくのではないかと思います。保護者が兄弟姉妹も含めた一人一人の子どもの一番の理解者でありたいという意見が出されました。

〇他の保護者との関わりについて

いろいろな子どもたちが在園しているのと同様、いろいろな保護者もいるということであり、ある程度の距離を持って接して、気持ちの落ち込みなどを整理していくことが良いという意見が出されました。

〇就学について

保護者の方は、住んでいる地域で育てたい。学区内の小学校に通わせたいという気持ちがあるが、迷っているという話がありました。保護者の方の迷いは十分理解できるので、教育支援アドバイザーから小学校の支援員の現状や就学先決定までの流れなどについて説明させて頂き、家族で十分話し合いながら就学先を決定するよう話をさせて致しました。

今回の座談会に参加させていただき、保護者の皆さんがお子さんの障がいについて正しく理解し受け止めて、将来に向けて前向きな姿勢で子育てに励んでいることに感銘を受けました。悩みながら子育てしている保護者の皆さんが、お互い協力しながら悩みを解決していけますよう、私たち地域支援センターの教員も微力ながらお手伝いできれば良いと考えています。このような機会をまた設定し有意義な話し合いを持ちたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

教育支援アドバイザー　安齋真介

心にしみた野澤さんの講演会

11月7日、親子レクリエーションを楽しんだ日の午後、植草学園大学教授（毎日新聞客員編集員）の野澤和弘先生の講演会「自閉症の子と ともに生きて」を拝聴しました。野澤さんがジャーナリストとしてかかわった障がい者への虐待に関する事件（水戸アカス事件、白河育成園事件、中学生5，500万円恐喝事件）、日本の障がい者福祉の動向、権利擁護に関する法整備についてなどを皮切りに、これから日本の社会問題にも切り込んでお話いただきました。ポイントを箇条書きでお伝えします。

〇障がい者の虐待事件から権利擁護に関する機運が高まった。障がい者をよく知る警察官を育てる動きなど。
〇障がい者と家族は大勢いる。（潜在的応援団はたくさんいる。心強い。）
〇身体拘束は問題行動を誘発する。（息子さんの子育てで、時間をかけて切ってくれる床屋さんに出会えた。）
〇よりよい支援が本人の意思決定を促す。（支援者の心のコンディションが大事。）
〇子どもの問題（貧困率7人に1人、いじめ41万件、小中学生の自死250人、小中学生の不登校14万人、15歳～39歳のひきこもり54万人）子どもの命をもっと大切にしなければならない。
〇「東大、障がい者のリアルにせまる」ALSを患っている岡部さんと、東大生の問答。「身体が動かないのは不自由？」「心が動かないのは不幸だ。生きている意味がないということは決してない。」→ある東大生の人生を変える一言となった。

会場を見渡すといつも自立支援協議会でお世話になっている行政や福祉の関係者の方々の顔ぶれが並んでいて、改めて関係機関との連携をしながら支援することの大切さや、支援者はみな心一つなのだという頼もしさを感じました。

（野澤先生からのご紹介）
☆ スローコミュニケーション（分かりやすいニュース）
大きめの文字、簡潔な文章でまとめられており、知的障がいがある方でも読みやすくなっています。知的障がい者への合理的配慮がなされたものです。中学部や高等部の生徒の皆さんにいかがでしょうか。スマートフォンで検索するとすぐに見つかります。

☆ （書籍）「スローコミュニケーション わかりやすい文章、わかちあう文化」野澤 和弘著、1，650円

「困っている時に困ったと伝えられないと、支援は得られません。」
スローコミュニケーション代表の野澤先生が、自身の経験をふまえて綴った1冊です。
意思決定支援、合理的配慮、共生社会…など難しくなりがちな話題も、具体的なエピソードを通して身近に感じられるようになっています。

◎ お気軽にご相談ください。しせい専用電話080－7241－7351（平日9時～16時）大和田布佐子